

学位論文要旨

内モンゴル自治区におけるモンゴル伝統音楽伝承の課題と意義

広島大学大学院教育学研究科
教育学習科学専攻 教科教育学分野
音楽文化教育学領域

D173421 AERSILENG

I 論文の構成

序章 本研究の課題と目的

第1節 研究の背景と課題

第2節 先行研究の検討

第3節 研究の目的と方法

第1項 研究目的

第2項 研究対象

第3項 論文の構成

第1章 内モンゴル自治区のモンゴル民族小学校における伝統音楽の学習

第1節 モンゴル民族小学校の音楽科教科書における伝統音楽の有り様

第1項 音楽科教科書における伝統音楽を取り扱った教材の概要

第2項 音楽科教科書における伝統音楽を教材とした活動領域と学習内容

第3項 まとめ

第2節 内モンゴル自治区のモンゴル民族小学校における音楽教育の在り方

第1項 対象とする4つのモンゴル民族小学校について

第2項 4つのモンゴル民族小学校音楽科授業の概要

第3項 4つのモンゴル民族小学校の課外活動におけるモンゴル伝統音楽の学習

第4項 モンゴル伝統音楽の学習が子どもたちの民族アイデンティティに与える影響

第5項 まとめ

第2章 内モンゴル師範大学音楽科教員養成におけるモンゴル伝統音楽の位置づけ

第1節 内モンゴル師範大学音楽科教員養成課程の概観

第2節 音楽科教員養成カリキュラムの構成

第1項 教員養成目標と求める学生像

第2項 カリキュラム構成

第3項 「モンゴル語受講コース」における独自の科目

第3節 まとめ

第3章 内モンゴル芸術大学におけるモンゴル伝統音楽学習からみる民族アイデンティティ形成

第1節 内モンゴル芸術大学におけるモンゴル伝統音楽を取り扱う学科及び研究分野

第2節 カリキュラム構成

第1項 人材育成目標と求める学生像

第2項 カリキュラム構成

第3節 モンゴル伝統音楽学習が民族アイデンティティに与える影響

第1項 教員を対象としたインタビュー調査の結果

第2項 学生を対象としたアンケート調査の分析

第4節 まとめ

第4章 内モンゴル民族音楽団におけるモンゴル伝統音楽活動

第1節 内モンゴル民族音楽団の概要

第1項 内モンゴル民族音楽団の発展経緯

第2項 内モンゴル民族音楽団の団員について

第2節 内モンゴル民族音楽団による音楽活動

第1項 活動範囲及び主な業績

第2項 公演などに取り扱っている音楽内容

第3節 内モンゴル民族音楽団の団員によるモンゴル伝統音楽の伝承活動

第4節 内モンゴル民族音楽団から見た民族アイデンティティ

第1項 モンゴル伝統音楽の有効性について

第2項 民族文化の伝承者としての認識

第5節 まとめ

終章 本研究の成果と今後の課題

第1節 各章の概要

第2節 成果と課題

第1項 成果

第2項 課題

文献

II 各章の概要

本研究では、内モンゴル自治区におけるモンゴル伝統音楽伝承の現状と課題を明らかにし、モンゴル伝統音楽の伝承が「モンゴル民族」としての民族アイデンティティ形成に与える影響について考察することを目的とする。

序章 本研究の課題と目的

中国という多民族多文化の融合した複雑な環境において、内モンゴル自治区全体が漢化の危機に追われ、自治区の文化開発、教育方針や民族政策などは現在でも多くの不安定な要素を含んでいる。筆者は、こうした漢化の危機に置かれた複雑な状況において、内モンゴル自治区のモンゴル人たちが「モンゴル民族」としてのアイデンティティを保持していくにはどうしたらいいのかという問題意識を念頭に置き、内モンゴル自治区における近年の伝統文化の動向を取り上げた。そして、モンゴル文化の重要なシンボルとなっているモンゴル伝統音楽の伝承に焦点を当てることの重要性を述べ、内モンゴル自治区におけるモンゴル伝統音楽の伝承に関する先行研究を検討し、最後に、本研究の目的、研究の対象や方法を示した。

第1章 内モンゴル自治区のモンゴル民族小学校における伝統音楽の学習

第1章では、モンゴル語版音楽科教科書と漢語版音楽科教科書における伝統音楽の比較分析を行ない、内モンゴル自治区のモンゴル民族小学校の音楽科教科書で取り扱っている伝統音楽について検討した。そして、内モンゴル自治区の4つの行政単位におけるモンゴル民族小学校の音楽教育を観察し、モンゴル伝統音楽の学習が民族アイデンティティ形成に与える影響について考察した。その結果、2種類の音楽科教科書における伝統音楽が、主に「歌唱」活動と「鑑賞」活動において取り扱われており、その学習内容はほぼ一致している。いずれも伝統音楽の特徴と背景となる民族や文化の紹介、また、音楽的要素、身体表現、創造、楽器とかかわった学習内容が示されている。相違点として挙げられるのが、漢語版音楽科教科書に取り扱われている伝統音楽では、漢民族と国内の少数民族の伝統音楽をバランスよく取り扱っていることに比べて、モンゴル語版音楽科教科書に取り扱われている伝統音楽のほとんどがモンゴル民族の伝統音楽であることである。しかし、内モンゴル自治区の4つの行政単位のモンゴル民族小学校における音楽科授業を観察したところ、フフホトモンゴル民族実験小学校でのみ鑑賞の授業が行われており、4つの学校とも歌唱の授業に重点を置いていることが明らかになった。また、4つの地域におけるモンゴル文化と伝統音楽の位置づけや学校の現状などの違いによって、モンゴル伝統音楽が子どもたちの身近に存在しているか否かが異なり、それによって、音楽科授業におけるモンゴル伝統音楽に対する子どもの関心・理解が異なることが明らかになった。さらに、モンゴル伝統音楽の課外活動が行われているハーンオール小学校の音楽科教員と、鑑賞の授業及び課外活動の両方が行わ

れているフフホトモンゴル民族実験小学校の音楽科教員を対象としてインタビュー調査を実施した。その結果、課外活動や鑑賞の授業を通じて、モンゴル伝統音楽に興味を持ち、本格的に学ぶ子どもが増え、校内外の大小イベントなどに積極的に参加するようになっていたことが明らかになった。これにより、子どもたちの民族文化へ関心・理解が深まり、中国語を混同せずにモンゴル語で会話する、モンゴル民族衣装を着用するように心がける子どもが増えていることが明らかになった。

第2章 内モンゴル師範大学音楽科教員養成におけるモンゴル伝統音楽の位置づけ

第2章では、内モンゴル師範大学の音楽学学科「漢語受講コース」と「モンゴル語受講コース」のカリキュラムに基づいて、内モンゴル師範大学の音楽科教員養成におけるモンゴル伝統音楽の位置づけについて検討した。その結果、2つのコースとも、1つの専攻を熟練した上で、音楽科教員になるための多様な素質、知識と能力を身につけた学生の育成を図ったカリキュラム構成になっている。モンゴル伝統音楽が「モンゴル語受講コース」において数多く取り扱われているが、オルティン・ドー、ホーミー、モリンホール、ドゥルブンオタストホール、シャンジのみ「専攻」として設置されている。しかし、専門課程（選択）の科目においてモンゴル伝統音楽が多く設置されていることは、モンゴル伝統音楽に触れる機会が多いということであり、すなわち音楽科教員養成におけるモンゴル伝統音楽の位置づけという視点から言って重要であるといえる。

第3章 内モンゴル芸術大学におけるモンゴル伝統音楽学習からみる民族アイデンティティ形成

第3章では、内モンゴル芸術大学でモンゴル伝統音楽を専門分野として取り扱っている民族声乐分野、民族器楽分野、民謡伝承クラスのカリキュラムに基づいて、内モンゴル芸術大学におけるモンゴル伝統音楽の在り方について検討し、モンゴル伝統音楽の学習が学生たちの民族アイデンティティ形成に与える影響について考察した。その結果、カリキュラムの分析から、内モンゴル芸術大学において、民族声乐分野ではオルティン・ドーとホーミーが、民族器楽分野ではモリンホール、ドゥルブンオタストホール、チョール、シャンジ、ホビス、ヤトガが「専攻」として設けられている。これに加え、「モンゴル民謡伝承クラス」が設置され、ここに、内モンゴル自治区の5つの地域のモンゴル民謡が「専攻」として設けられている。3つの分野とも、主に、音楽の基礎知識と理論に関する科目を履修するようになっている。その中で、モンゴル民謡伝承クラスの必修科目として設置されている「モンゴル民族音楽史」、「モンゴル民族伝統音楽概論」が特徴的であって、モンゴル学生たちの自民族文化、歴史の理解及びモンゴル伝統音楽の学習にとって、重要な科目であるといえる。また、インタビュー調査やアンケート調査から、モンゴル伝統音楽の学習を通じて、学生たちの民族伝統音楽、あるいは民族文化への関心・理解に変化が生じ、民族意識が高まっていることが明らかになった。

第4章 内モンゴル民族音楽団におけるモンゴル伝統音楽活動

第4章では、内モンゴル民族音楽団に実施した資料収集、及びアンケート調査、インタビュー調査に基づいて、内モンゴル民族音楽団におけるモンゴル伝統音楽活動について検討した。そして、民族アイデンティティ形成についても考察した。検討の結果、内モンゴル民族音楽団が幅広い範囲でモンゴル伝統音楽を取り扱った音楽活動を行っており、その音楽の歌詞内容や文芸技法、音楽表現などのほとんどがモンゴルの民族文化、生活、歴史などに関連していることが明らかになった。また、団員たちが各自の得意な分野でさまざまな方式で、指導者、教育者としてモンゴル伝統音楽の伝承にかかわっていることが明らかになった。さらに、団員に実施したアンケート調査から、団員たちが、モンゴル伝統音楽、民族文化と民族意識の関連性に関する認識が高く、そして、モンゴル伝統音楽や民族文化の伝承者としての認識と責任感が強いことが明らかになった。

終章 本研究の成果と今後の課題

終章では、各章の概要を踏まえたうえで、成果と今後の課題について述べた。本研究の成果は以下である。

(1) 本研究の成果

① 小学校の音楽科授業における鑑賞の重要性

第1章で明らかになったように、内モンゴル自治区の4つの行政単位のモンゴル民族小学校において、フフホトモンゴル民族実験小学校でのみ鑑賞の授業が行われており、これが子どもたちの伝統音楽や民族文化、生活への関心・理解に大きな役割を果たしていることが明らかとなった。したがって、内モンゴル自治区のほかの3つの行政単位の小学校も、フフホトモンゴル民族実験小学校のように、音楽教室、設備など学びの環境を充実させ、例えば、プロジェクターなどを用いて、子どもたちにより直感的にモンゴル伝統音楽とその関連文化などについて理解させるように工夫した鑑賞の授業を行うべきである。これによって、子どもたちは、鑑賞の授業を通して、より多くのモンゴル伝統音楽やその背景となる民族文化、生活などについての理解が深まるといえる。

内モンゴル師範大学の音楽科教員養成では、1つの専攻を熟練した上で、音楽科教員になるための多様な素質、知識と能力を身につけた学生の育成を図ったカリキュラム構成になっており、そこに多くのモンゴル伝統音楽が取り扱われている。これらを履修した学生たちが将来モンゴル民族小学校の音楽科教員になり、各種のモンゴル伝統音楽を取り扱う鑑賞の授業を行うことによって、子どもたちが、音楽科教科書に取り扱われているモンゴル伝統音楽の特徴及びその音楽の背景となる歴史や文化などについてもっと有効的な学習ができるようになるといえる。例えば、

民族器楽の演奏技能や知識を身につけた学生が、音楽科教師として、民族楽器を子どもたちの前で自ら演奏して鑑賞させることが、子どもたちの自民族伝統音楽への理解や関心を深め、より有効な鑑賞ができると考えられる。

② 内モンゴル芸術大学の学生が音楽科教員になる有効性

内モンゴル芸術大学の学生たちの今後の進路について調査した結果、音楽科教員を目指していると答えた学生が約半数を占めていた。1つの専攻に特化し、より専門的スキルを身につけた学生は、将来音楽教育に携わった場合、自分が特化してきた分野で活躍することが有効であると考えられる。例えば、モリンホール専攻に特化してきた学生は、鑑賞の授業、課外活動や校内イベントにおけるモリンホールの指導にかかわることで、子どもたちにより専門的なモリンホールのスキルを身につけさせることができると考えられる。その指導は、内モンゴル師範大学において選択科目となっていた「モンゴル音楽類無形文化遺産」、「モンゴル地域音楽鑑賞と分析」に含まれる多種類のモンゴル伝統音楽に焦点化しているという意味で、内モンゴル師範大学よりも効果的な指導といえるかもしれない。内モンゴル芸術大学で専攻する各モンゴル伝統音楽について、その取り扱いの重要性は、第1章の音楽科教科書の分析や第2章の音楽科教員養成のカリキュラムに際して述べた通りである。すなわち、内モンゴル芸術大学での専攻への特化にみられる、モンゴル伝統音楽の取り扱いの重視が、音楽教育にかかわっても大きな役割を果たすように思われるのである。

ただし、小学校における音楽教育の全体を見たとき、このように1つの専攻に特化して学んできた内モンゴル芸術大学の学生に比べ、内モンゴル師範大学の学生のほうがよりよい教育が可能となると考えられる。なぜなら、歌唱や鑑賞といったさまざまな領域について指導し、また教育そのものの方法を知っている必要がある点から言って、これらのことを学習しているのは内モンゴル師範大学の学生だからである。内モンゴル師範大学においては、1つの専攻を軸にした上で音楽教育に関する多様な能力や知識を身につける教員を育成していることが肝要なのである。また、中国で2004年から始まった無形文化遺産の保護活動や中国教育部が2005年に公布した「全国普通高等学校音楽学（教師教育）本科専門課程指導方案」に基づいて、各学校が所在する地域に関する民族特色のある科目の設置が認められているということを踏まえてみれば、第2章でみた内モンゴル師範大学の音楽科教員養成カリキュラムにおけるさまざまなモンゴル伝統音楽に関する科目が、近年においてカリキュラムに取り入れられた可能性が考えられる。そうした場合、内モンゴル自治区の今後のモンゴル民族小学校におけるモンゴル伝統音楽の伝承が改善されることが期待できるだろう。

③ プロの音楽家を要請する重要性

小学校の音楽科教員へのインタビュー（第1章）からいえるように、小学校の校内イベントや課外活動にプロの音楽家を要請することは、子どもたちにより専門的なモンゴル伝統音楽と触れ合う機会を与えることになり、これによって、例えばモンゴル伝統音楽を学びたいという気持ちに繋がる。場合によっては、子どもが個人的にプロの音楽家の指導を受けることに繋がり、そこでは、より専門的に伝統音楽を学ぶことが可能である。また、プロの音楽家が、内モンゴル芸術大学や内モンゴル師範大学などの高等教育機関や地域音楽集団から要請され、モンゴル伝統音楽の指導に携わることも、学生や地域音楽集団の団員の伝統音楽技能や知識の向上に大きく貢献できると考えられる。

また、内モンゴル芸術大学の学生たちは、将来的にプロの音楽家になる意思を示した学生が半数を占めていた。その場合、内モンゴル民族音楽団の団員と同様で、プロの音楽家という観点からみて、モンゴル伝統音楽のより専門的な伝承に一定の役割を果たせることが期待できる。

④ 伝統音楽の伝承にみられる民族アイデンティティ形成の可能性

本論文では、ハーンオール小学校とフフホトモンゴル民族実験小学校の音楽科教員へのインタビュー調査から、モンゴル伝統音楽を学習することによって、子どもたちのモンゴル伝統音楽や民族文化への関心・理解が高まり、中国語を混同せずにモンゴル語で会話する、モンゴル民族衣装を着用するように心がける子どもが増えていることが明らかになった。また、内モンゴル芸術大学の教員へのインタビュー調査と学生たちへのアンケート調査では、ほとんどの学生がモンゴル文化、モンゴル伝統音楽の保護と伝承のため貢献するという意思を示し、モンゴル民族としての自慢、誇りを挙げた回答が多かった。さらに、内モンゴル民族音楽団の団員たちに実施したアンケート調査から、プロの音楽家たちの民族文化の伝承者としての認識の高さと責任感の強さが明らかになった。つまり序章で述べた、「モンゴル民族」としての民族アイデンティティに関する定義、すなわち、モンゴル伝統音楽に触れることでモンゴル人である自覚以上のものが現れることとしての民族アイデンティティの形成が維持されたといえよう。本論文における各章での検討の中にみられた、会話や生活、伝承への意思、民族への誇りといった面にそれは表れている。

また、第4章で明らかになったように、モンゴル伝統音楽をより専門的に取り扱っているプロの音楽家の民族意識が高く、モンゴル伝統音楽をはじめ、民族文化を伝承するという責任感が形成されている。このような人々が、小学校に要請され、校内のイベントや課外活動におけるモンゴル伝統音楽の指導に携わることは、責任感という面からみて、伝統音楽の伝承に対する責任を果たすための活動の1つといえるであろう。そして、こうしたプロの音楽家による小学校での指導は、技能を中心に学んできた教員養成出身の音楽科教員による指導と比べて、例えば器楽奏法にとどまらずモンゴル民族文化を継承するという面で、子どもたちにより深く伝統音楽そのものを伝えることができる。それは、子どもたちの民族アイデンティティ形成にとって一定の役割を

果たしているといえる。

加えて、プロの音楽家が内モンゴル芸術大学、内モンゴル師範大学などの高等教育機関から要請され、伝統音楽の指導に携わることは、小学校と同様に、学生たちにモンゴル伝統音楽に関する能力をはじめ、民族アイデンティティの形成に影響を与えるといえる。そして、プロの音楽家の下で学んだ学生たちが、将来、小学校における音楽教育に携わった際、伝統音楽技能を教えるだけにとどまらず、その伝統音楽を通して、伝統音楽の基盤となっている民族文化、生活の伝承の重要性も主張していこう。

⑤ モンゴル民族学校教育における音楽教育の重要性

序章で述べたように、中国では少数民族の学校教育で教える教科内容のほとんどが、漢語教科書の内容を少数民族の言語で訳したものである。しかし、第1章で明らかになったように、モンゴル民族小学校で使用されている音楽科教科書では、多くのモンゴル伝統音楽が取り扱われており、その音楽の歌詞や学習内容などに、モンゴル民族の歴史、生活及び精神文明などモンゴル民族文化そのものが反映されている。この観点からいえることは、多民族多文化共生の中国に生きるモンゴル人たちが、モンゴル民族の文化、あるいはモンゴル民族としてのアイデンティティを保持していくには、民族学校教育において、音楽教育を重要視することが最も必要である。

⑥ さらなるアイデンティティ形成に向けて期待されること

第1章でみたように、4つのモンゴル民族小学校の内、バヤンウンドゥル・ソムという地域では遊牧生活が保持されているために、バヤンウンドゥル小学校の子どもたちは、遊牧生活、家畜、草原、モンゴル生活習慣など民族文化への理解が自然にできている。これにより、例えば、第1章の歌唱の授業の中でみたモンゴル民族に家畜とされている5種類の動物（羊、ヤギ、馬、ラクダ、牛）の名称及び各年齢段における名称などを歌詞に取り入れた民謡を学習するとき、都市化しているほかの3つの地域の子どもたちに比べて、バヤンウンドゥル小学校の子どもたちは効率的に学習することができる。すなわちハーンオール小学校、赤峰市モンゴル民族実験小学校、フフホトモンゴル民族実験小学校においても、子どもたちにモンゴル文化、生活などを体験できる機会を提供することが、民族文化、生活への理解に大きな影響を与え、モンゴル伝統音楽の学習に役立つと考えられるのである。つまり、民族文化、生活習慣などにより近い環境を体験することを踏まえることで、音楽科における歌唱の授業を、アイデンティティ形成の面からみて、さらに意義あるものにしようということである。

（2）今後の課題

本研究では内モンゴル自治区の数多くあるモンゴル民族小学校の中から、4つの小学校を対象

にすることによって、4つの行政単位における音楽教育が大きく異なっていることが明らかとなったという意味で一定の成果は得られた。しかし今後は、研究対象をさらに広げていくことが必要である。これにより、内モンゴル自治区のモンゴル民族小学校の全体的なモンゴル伝統音楽の実態と課題が明らかになり、モンゴル人子どもたちの民族アイデンティティ形成において、更なる効果を得られることが期待できる。また、小学校のほか大学等においても、音楽学部を有する内モンゴル自治区のほかの総合大学や専門学校などに焦点を当て、そこにおけるモンゴル伝統音楽学習について追究するなどして、さらに広い視野で研究を進めたい。加えて、プロの音楽集団についても、内モンゴル自治区各地域にある音楽集団を対象として、研究を深化させていきたい。

さらに、4つの小学校において、課外活動における民族器楽を指導する現職教員は少ない可能性があった。なぜなら、観察した学校において、課外活動での器楽指導は外部への要請によるものであったからである。そのため、各学校の教員募集について検討することも今後の課題にした

Ⅲ 文献

i. 引用文献・参考文献

(日本語文献)

- 安部有希・伊東英 (2008) 「音楽教科書におけるポピュラー音楽—教材としての意義と可能性—」『岐阜大学カリキュラム開発研究』, Vol. 25、No. 2、pp. 56-64
- アルサラン (2019) 「内モンゴル芸術学院におけるモンゴル伝統音楽の学習が民族アイデンティティ形成に与える影響—モンゴル民歌伝承クラスに着目して—」『広島大学大学院教育学研究科紀要』 第二部第 68 号、pp. 271-279
- アルサラン (2020) 「内モンゴル自治区のモンゴル民族小学校におけるモンゴル伝統音楽学習の現状と課題」『日本モンゴル学会紀要』 第 50 号、pp. 37-48
- ウルゲン (2013) 「中国におけるモンゴル民族学校教育の研究」佛教大学博士論文
- 呉非 (2007) 「中国と日本の小学校音楽科における教育内容の構成の比較研究—90 年代以降の「大綱」・「標準」・「学習指導要領」と教科書の分析を中心に—」『広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要』 XIX、pp. 29-34
- 植松晃子 (2010) 「異文化環境における民族アイデンティティの役割—集団アイデンティティと自我アイデンティティの関係—」『パーソナリティ研究』 第 19 巻第 1 号、pp. 25-37
- 神崎明伸 (2017) 「中国の大学のカリキュラム改革に関する考察」『西南女学院大学紀要』 Vol. 21、pp. 181-190
- 格根薩仁 (2016) 「内モンゴル自治区の教員養成システムにおける教育実習の現状—内モンゴル民族大学を事例に—」『現代社会文化研究』 No. 62、pp. 127-144
- 高慧珠 (2017) 「中国の大学における小学校教員養成カリキュラムに関する研究」 広島大学博士論文
- 桐原礼 (2014) 「小学校音楽教科書にみる「歌」にかかわる教材の研究—音楽学習における異文化理解に向けて—」『帝京大学教育学部紀要』 第 2 号、pp. 187-195
- 張瓊華 (1998) 「中国における二言語教育と民族的アイデンティティの形成」『比較教育学研究』 第 24 号、pp. 180-181
- 董芳勝 (2007) 「音楽科教育を中心とした日中両国の教員養成の比較研究」『創価大学教育学部論集』 第 58 号、pp. 45-68
- 中谷猛 (2000) 「ナショナル・アイデンティティ」の概念に関する問題整理—国民国家論研究のためのノート—」『立命館法學』 3・4 号下巻 (271・272 号) pp. 1301-1332
- 野村幸治・中山裕一郎 (1997) 「中国の学校音楽教育の現在—「音楽教学大綱」(小学版) 及び 90 年代の音楽教科書(小学版) の分析を中心に—」『日本教科教育学会誌』 第 2 巻第 2 号、pp. 39-48
- 早川倫子・山本宏子 (2010) 「日中の音楽教員養成に関するカリキュラムについて—岡山大学, 東京藝術大学, 東北師範大学の事例分析をもとに—」『岡山大学教育実践総合センター紀要』 第 10 巻、pp. 55-62
- 本多佐保美 (2017) 「戦後中学校音楽科教科書における日本伝統音楽の取扱い—歴史的変遷および日韓比較の視点から—」『千葉大学教育学部研究紀要』 第 66 巻第 1 号、pp. 239-245 頁
- 丸井ふみ子 (2012) 「アイデンティティ研究の動向—異文化接触・言語との関係を中心に—」『言語・地域文化研究』 no. 18、pp. 193-209
- 劉麟玉・ヘレンリース (2012) 「学校音楽教育における伝統音楽の導入についての考察—中国、アメリカ、イギリス

の事例を通して—』『奈良教育大学紀要』第61卷第1号、pp. 155—161

渡辺一洋 (2015) 「内モンゴルの伝統文化が影響する造形教育における幼児の感性形成」『育英短期大学研究寄与』第32号、pp. 83—94

(中国語文献)

安娜 (2014) 「義務教育階段冀版、湘版、人教版音楽教材比較研究」河北師範大学修士論文

阿麗瑪 (2014) 「蒙古族音楽伝承発展研究」内蒙古師範大学修士論文

阿爾斯楞 (2018) 「蒙古族音楽的伝承与発展」『内蒙古社会科学』第6期、pp.182-184

卞小芸 (2012) 「伝統音楽在安徽省普通高校教育現状の調査与分析」『安徽農業大学学报・社会科学版』第21卷第4期、pp. 14-18

柏貴喜 (2011) 「民族認同与中華民族認同浅論」『西南民族大学学报』(人文社会科学版) 2011年第11期、pp. 34—39

博特楽図 (2015) 「蒙古族伝統音楽概論」内蒙古大学出版社

鮑常光 (2003) 「中、日、美三所大学音楽教育專業課程設置的比較」『天津音楽学院学报』第4期、pp. 77-84

初媛媛 (2009) 「対全国普通高等学校音楽学(教師教育)本科專業課程指導法案的研究」揚州大学修士論文

崔斌 (2009) 「新疆阿克蘇地区民族歌舞劇団対龜茲音楽文化伝承的探析」『新疆師範大学学报』第1期、pp. 110-114

崔淑芬 (2011) 「内モンゴル自治区の教育現状の一考察」『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』6号、pp. 155-166

鄧江永 (2015) 「小学新課程音楽教科書(湖南版)中劇曲音楽内容比較」西南大学修士論文、pp. 1-67

範薇 (2018) 「論中小学音楽教育中伝統音楽的伝承与発展」『戲劇之家』第7期総271期、pp. 139-140

貴雪 (2018) 「内蒙古地方民謡在小学音楽課程中的实践探求」内蒙古師範大学修士論文

郭声健・李小纓 (2013) 「另一只がん眼睛觀看課程—以全国普通高等学校音楽学(教師教育)本科專業課程指導法案為例—」『芸術百家』、第3期総132期、pp. 151—157

高敏 (2010) 「論蒙古族長調芸術的民族性与世界性」『音楽創作』2010年第二期、pp. 133-134

胡宏莉 (2013) 「中国伝統音楽在人教版義務教育音楽教育中的運用」『音楽天地』第10期、pp. 27 - 28

呼格吉楽図 (2006) 『蒙古族音楽史』遼寧民族出版社

黄金 (2017) 「蒙古族伝統音楽文化的伝承保護現状」『内蒙古民族大学学报 社会科学版』第43卷第2期、pp. 1-4

姜曉芳 (2015) 「浅談在音楽院系中蒙古族伝統音楽的伝承方式—以内蒙古芸術学院音楽学院為個案—」『内蒙古師範大学学报 教育科学版』第28卷第11期、pp. 168-170

林琳 (2015) 「新課程背景下中小学音楽教科書比較研究」哈爾濱師範大学博士論文

吝澤華 (2017) 「人教版小学音楽教科書中合唱歌曲的教学方法研究」寧夏大学修士論文

劉卓群 (2013) 「非物質文化遺產視野下的冬布拉制作伝承研究」新疆師範大学修士論文

劉金鐸 (2014) 「関与錫盟歌舞団の民族文化伝承作用及其影響」『音楽時空』第1期、pp. 50-51

- 李彥群 (2017) 「少数民族教科書国家認同的構建途徑」『現代教育科学』2017 第 5 期、pp. 127-131
- 苗金海 (2013) 「民族音樂文化遺產傳承的新模式」『内モンゴル芸術大学学報』第十卷第三期 (総第三十七期)、pp. 80-83
- 莫小蘭 (2013) 「浅談文芸团体在文化建設中的作用」『民族論談』第 1 期、pp. 94-97
- 攀祖蔭 (2012) 「音樂芸術院校傳統音樂教育的現狀及思考」『音樂探索』第 3 期、pp. 9-12
- 薩日娜·烏雲塔娜 (2011) 「蒙古族傳統音樂在高等芸術教育中的傳承實踐與思考」『民族教育研究』第 5 期第 22 卷 總第 106 期、pp. 108-112
- 孫維佳 (2016) 「遼海出版社小学音樂教科書研究」『成才之路』第 24 期 總第 508 期、pp. 26-27
- 孫磊 (2008) 「音樂學教師教育專業教學實踐與管理策略探究」『兵团教育学院学報』第 18 卷第 4 期、pp. 78-82
- 藤騰「蒙古族傳統音樂傳承研究」内モンゴル師範大学修士論文
- 王漢君 (2007) 「音樂教師教育面臨的困境與出路」『音樂教學與研究』第 1 期、pp. 15-17
- 文華 荀举 (2018) 「杜爾伯特蒙古族歌舞團文化傳承價值研究」『中国民族博覽』第 2 期、pp. 155-157
- 徐敦光 (2007) 「我国音樂教師教育存在的問題與思考」『東方師範大学学報 (哲学社会科学版)』第 6 期總第 230 期、pp. 184-187
- 楊夢嬌 (2016) 「現代化語境中蒙古族基本音樂教育的變遷」内蒙古芸術学院修士論文
- 楊雨露 (2019) 「改革開放後我国小学音樂教材研究」淮北師範大学修士論文
- 袁炳昌·馮光鈺編 (2007) 『中国少数民族音樂史 (第四章 蒙古族音樂史 烏蘭杰)』京華出版社、pp. 116-166
- 張婷 (2015) 「內蒙古地区中小学民族音樂教育存在的問題及改進对策」『內蒙古師範大学学報·教育科学版』第 28 卷第 8 期、pp. 170-172
- 張惠萍 (2016) 「浅談小学音樂教材中的中国傳統音樂教材」『音樂天地』第 10 期、pp. 12-14
- 趙淑萍 (2009) 「浅談少数民族音樂在中小学音樂教育中的地位」『吉林省教育学院学報』第 12 期第 25 卷、pp. 8-9
- 中国人民政治協商会議 (1982) 「中華人民共和國憲法」中国法制出版社
- 中国人民代表大会常務委員会 (1984) 「中華人民共和國民族区域自治法」中国民主法制出版社
- 中華人民共和國國務院 (1991) 「關於進一步做好少数民族語言文字工作報告的通知」国家民族事務委員会發行
- 中華人民共和國國務院 (2015) 「關於加快發展民族教育的決定」国發 46 号
- 中華人民共和國教育部 (2011) 「義務教育新音樂課程標準」北京師範大学出版社

ii. 教材

- 人民教育出版社音樂教材編集部 (2013) 「音樂」全 12 冊 人民教育出版社
- 內蒙古自治區教育出版社蒙古文音樂教材編集部 (2014) 「音樂」全 12 冊 內蒙古教育出版社

iii. 資料

- 内モンゴル師範大学 (2014) 「師範類学科人材培養法案 (音樂學学科モンゴル語受講コース)」(Word 版電子媒体)

内モンゴル師範大学 (2016) 「師範類学科人材培養法案 (音楽学学科モンゴル語受講
コース)」 (Word 版電子媒体)
内モンゴル師範大学 (2018) 「芸術類录取情報統計表」 (Excel 版電子媒体)
内モンゴル師範大学 (2019) 「芸術類录取情報統計表」 (Excel 版電子媒体)
内モンゴル芸術大学教務処 (2018) 「内モンゴル芸術大学本科專業培養方案」 (Word 版電子媒体)
内モンゴル芸術大学 (2018) 「教学計画」 (Excel 版電子媒体)
内蒙古民族音楽団の簡歴 (紙媒体)
内モンゴル民族音楽団 (2014) 「中国第五回少数民族曲芸祭」公演プログラム (Word 版電子媒体)

iv. Web 資料

内蒙古民族芸術劇院 <http://www.nmgmzys.com/> (2018年6月20日閲覧)
内蒙古芸術学院 <http://www.imac.edu.cn/nyjj.shtml> (2019年6月22日閲覧)
内モンゴル師範大学音楽学院 <http://music.imnu.edu.cn/xygk1/xyjj.htm>
(2019年10月16日閲覧)
中華人民共和國國務院 (2010) 「第六次全国人口普查内蒙古自治区蒙古族人口数据」
www.360doc.com/content/18/0520/15/8527076_755455690.shtml (2019年6月15日閲覧)
中華人民共和國教育部 (2005) 「全国普通高等学校音楽学 (教師教育) 本科專業課程指導法案」
http://www.moe.gov.cn/s78/A17/twys_left/moe_794/moe_624/tnull_8714.html
(2019年10月16日閲覧)
筒石賢昭・沈莉卓 (2013) 「中国における伝統音楽教育改革の試み」
http://www.u-gakugei.ac.jp/~graduate/rengou/kyouin/news/data_kouiki_h25/10.pdf#search= (2019年7月
21日閲覧)
筒石賢昭 (2002) 「日米中の音楽教育における学際的カリキュラムの国際比較研究」
<https://core.ac.uk/download/pdf/15918497.pdf#search=%27%E6%97%A5%E4%B8%AD%E9%9F%B3%E6%A5%BD%E6%95%99%E5%93%A1%E9%A4%8A%E6%88%90%E3%82%AB%E3%83%AA%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%A9%E3%83%A0%27> (2020年6月25日
閲覧)